

IntelのWired for Management構想について(2)

バージョンアップへの対応

パソコンを利用していく場合、いろいろなものをバージョンアップする必要があります。Windows 3.1からWindows 95へのOSのバージョンアップもそうですし、もちろんアプリケーションのバージョンアップも有ります。

バージョンアップを行うには、管理者が管理用のサーバにバージョンアップ情報（OSインストール用ファイル、BIOS設定情報、配布用パッケージなど）を設定することによって、管理用のサーバが自動的にアップデートやバージョンアップを行うことができます。

このうちOSのバージョンアップに関しては、すでに多くのOSがバージョンアップに対応した機能を搭載しています。たとえば、Windows NTでは、ログオンスクリプトとセットアップ時の手順を記載した応答ファイルを使うことによって、ネットワーク経由でOSのバージョンアップを行うことができます。この機能を使うことによって、ユーザがログオンした際に、OSのバージョンアップを行うことが可能です。この機能は、他のOSでも同様の機能が搭載されているために、特にWired for Management基本バージョン1.1（以下WfM1.1）には特に盛り込まれていません。

また、BIOSもアップデートすることが可能となっています。フォーマットもされていないようなPCに遠隔操作でOSを新規にインストールしたり、BIOSをアップデートするには、システムがブートする前の処理（プリブート）を実現するために何らかの特殊な仕組みが必要となります。Unixのサーバ/クライアント環境では、DHCP/BOOTPなどと呼ばれるプロトコルを使ってクライアントにOSをロードしてブートすることが可能ですが、Windows環境ではまだこのような技術は確立していませんでした。

WfM1.1には、これに対応した機能として“プリブートのOSセットアップ”を実現するソフトウェア（実際はマザーボードやLANアダプタに搭載するファームウェア）が盛り込まれています。これが、プロトコルとしてDHCP/BOOTPを使ったLAN Desktop Service Agentであり、インテルから各PCメーカーに供給されています。

アプリケーションのバージョンアップへの対応としては、現在多くの管理ツールなどで、遠隔操作による新規インストールや自動的なバージョンアップの機能が実現されています。しかし、それぞれの閉じられた環境で実現されているのであって、異なるメーカー間での整合性が取れているわけでは有りません。全体の管理をするために、整合性を取れるようにしようとするのがWfMですが、どのようにとっていくかが課題となっています。

(情報誌トピックス)

○ 目録 コンピュータ 12月8日号

特集 セキュリティは万全か

→ なりすまして社内ネットワークに侵入する事件が、日本でも表面化し始めている。これまで話題になった「ウイルス」だけでなく、侵入によってデータの破壊、盗難が深刻になってきている。セキュリティを守るには、ネットワークを前提とした、全社的安全対策「エンタープライズ・セキュリティ」の確立が必要。

特集 携帯端末の本命争いが日米で過熱

→ COMDEX FallでWindows CEやPalmPilotなどのブースが人気で、小型ノートパソコン、独自仕様機などを加えて、携帯情報端末の本命の座をねらう争いが過熱し始めている。

○ 目録 エレクトロニクス 12月15日号

特集 見切り発車するデジタルTV

→ 98年秋にアメリカで地上波を使ったデジタル放送が始まる。これをきっかけに、テレビ受像機はさまざまなフォーマットに対応した多目的モニターになり、放送網は、高速デジタルネットワークへと姿を変える。

○ 目録 ネットワーク 12月15日/29日号

特集 最新ユーティリティソフト大全

→ システム診断、ファイル管理、アンインストールなど108の“お役立ちソフト”の特集

レポート 97年 世間を騒がせたパソコン10大ニュース

→ 瞑想するアップル、NECの路線変更、インターネットなど今年の10大ニュース

ニュース Internet Explorer 4.0はパソコンを遅くする

→ IE 4.0を標準インストールした場合、32MBのメモリでは1割前後の性能低下がおきる。快適に使うには、64MB以上のメモリが必要。

○ 目録 オフィスシステム 12月号

特集 LAN構築の新常識

→ 計画無しにLANを拡張していったユーザでは突然LANの破綻がやってくる。スイッチングハブを利用したり、アプリケーションによるLANのボトルネックの発生を極力押さえることが、今後のLAN構築の必要な常識となっている。

○ 目録 マルチメディア 12月号

特集 誰でもできるEC

→ 規制緩和、いろいろな通信メディアの事由実によってEC（エレクトロニック・コマース：電子取引）の環境が整い、例えば、モールに出店することによって誰でもがECを始めることが可能になった。

○ P C W A V E 1月号

特集 「3Dゲーム」で遊ぶ

→Windows 95のDirect 3D対応のゲームの特集。ゲームセンターの動きがパソコンでできる。

特集 キーボードにこだわる！

→データ入力を中心として使われているキーボードの歴史を振り返りながら、最近の特徴ある製品の紹介。

○ L A N T I M E S 1月号

特集 業務システムを再構築する

→既存の基幹業務システムを再構築する必要に迫られたとき、肥大化、複雑化に対応する必要があり、既存のインフラやデータベースの再構築が不可欠となる。再構築の方法は。

特集 ネットワークから見たブラウザの実力

→デスクトップOSの一機能として組み込まれるWWWブラウザの現状と実力について

企画 セキュリティ基礎講座

→最近になって急速に整備されてきたセキュリティについての基礎講座